

ドライバー8,000人に聞いた『交通トラブル』実態調査

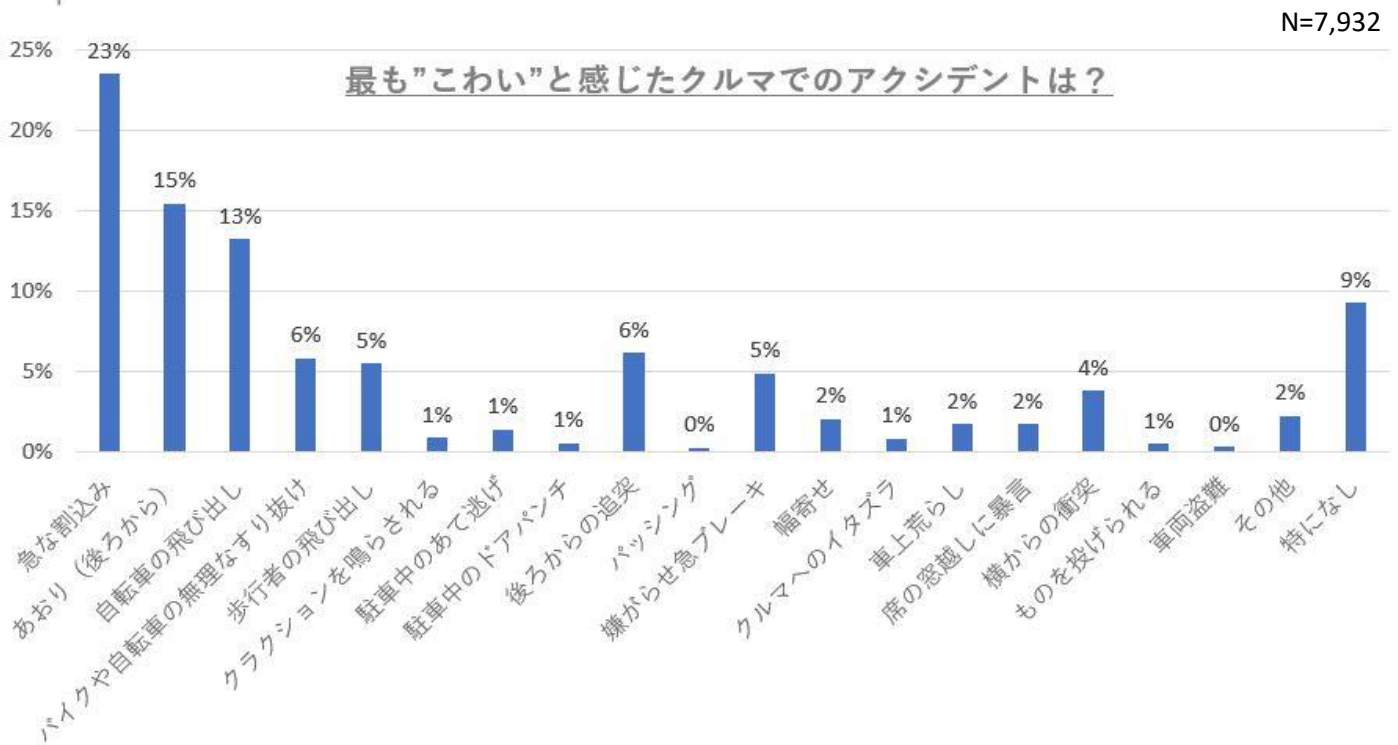
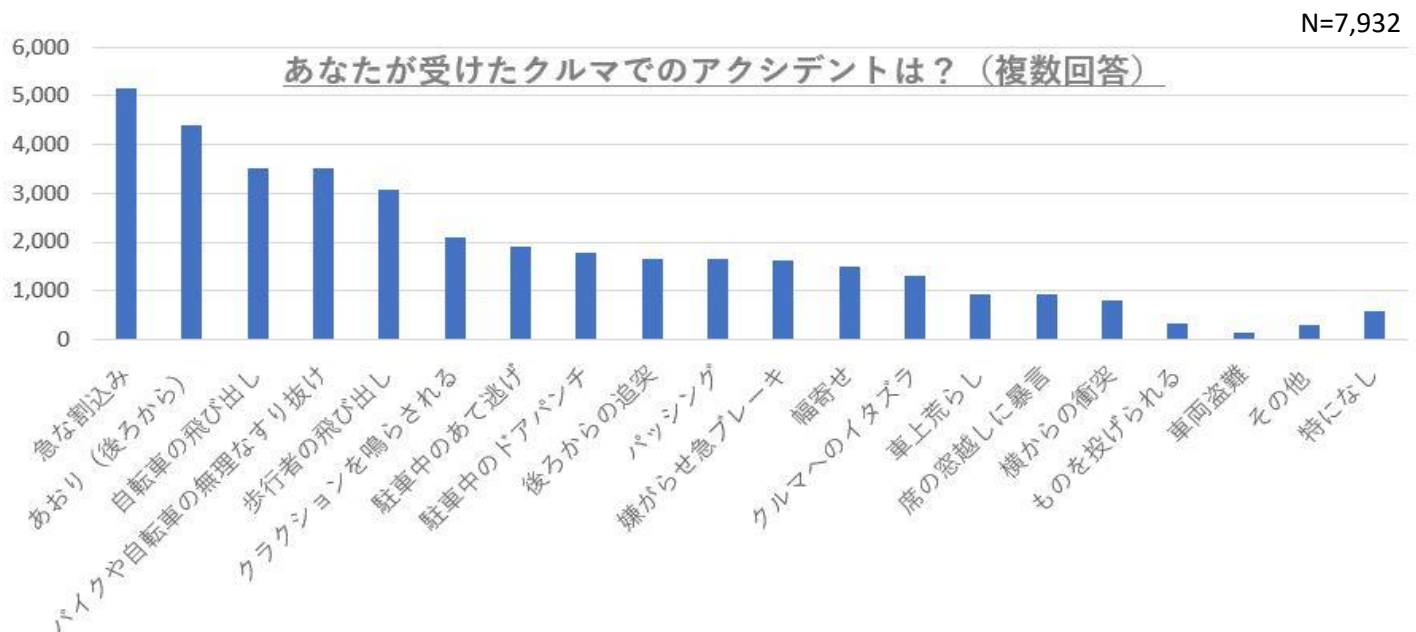
株式会社カーメイト調査

調査期間：2019年5月29日～6月4日

調査対象：カーメイト『ご愛用者登録者』チャイルドシート、ルーフキャリア、ケミカル

ドライブレコーダー、ライティング、等購入※ベビー用品、バイク用品、海外製品除く

有効回答：7,932件



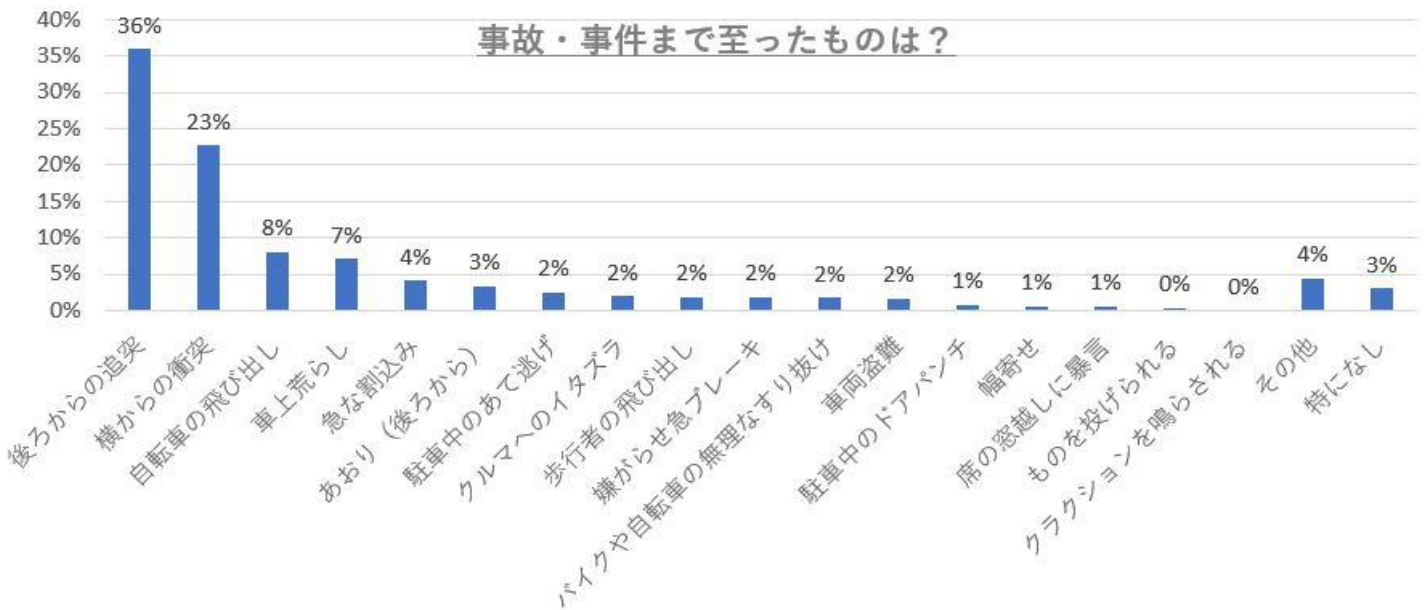
恐怖に思う約4割は迷惑運転、続いて自転車

怖いと感じるのは、1位『急な割込み（23%）』2位『あおり（15%）』など、迷惑運転が約4割を占めている。3位『自転車やバイクの飛び出し（13%）』は、日常的で加害者になりやすい事への恐怖と思われる。

ドライバー8,000人に聞いた『交通トラブル』実態調査

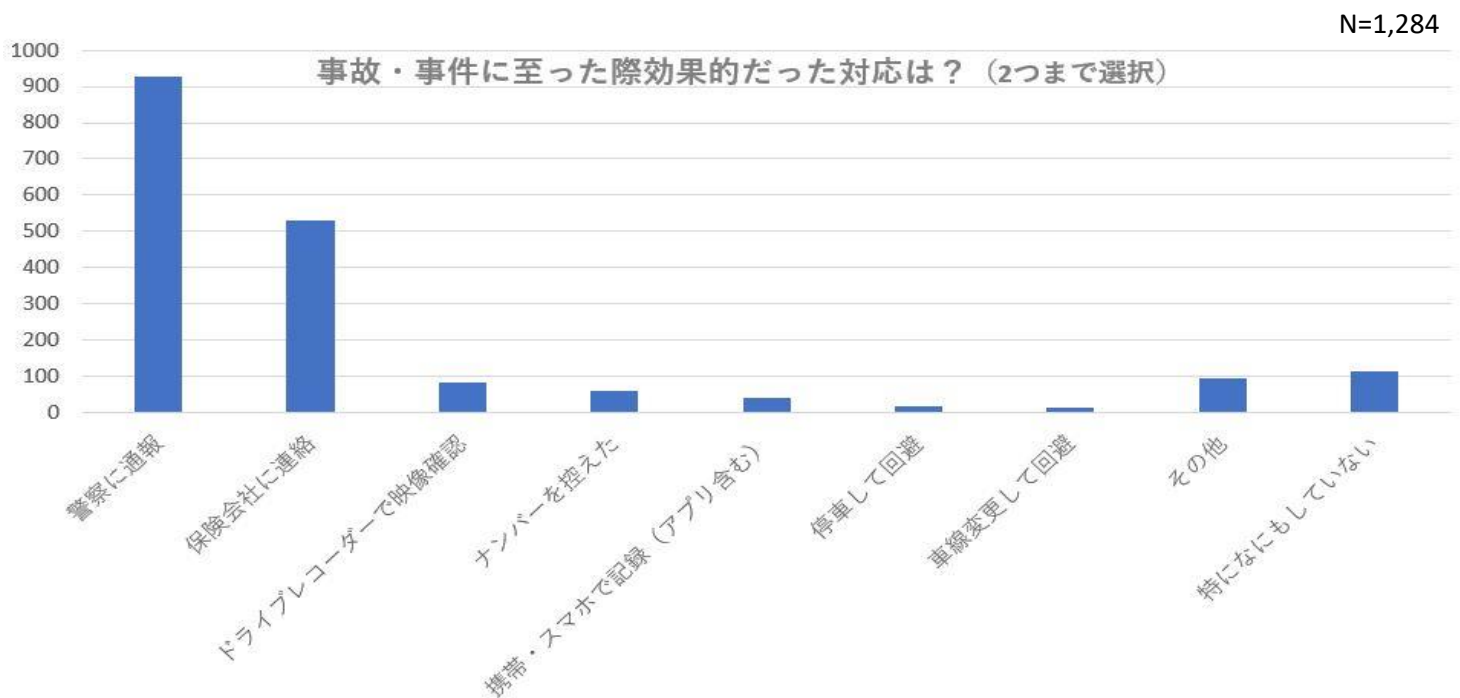
株式会社カーメイト調査

N=1,284



事故は後ろ・横からの「衝突」が約6割

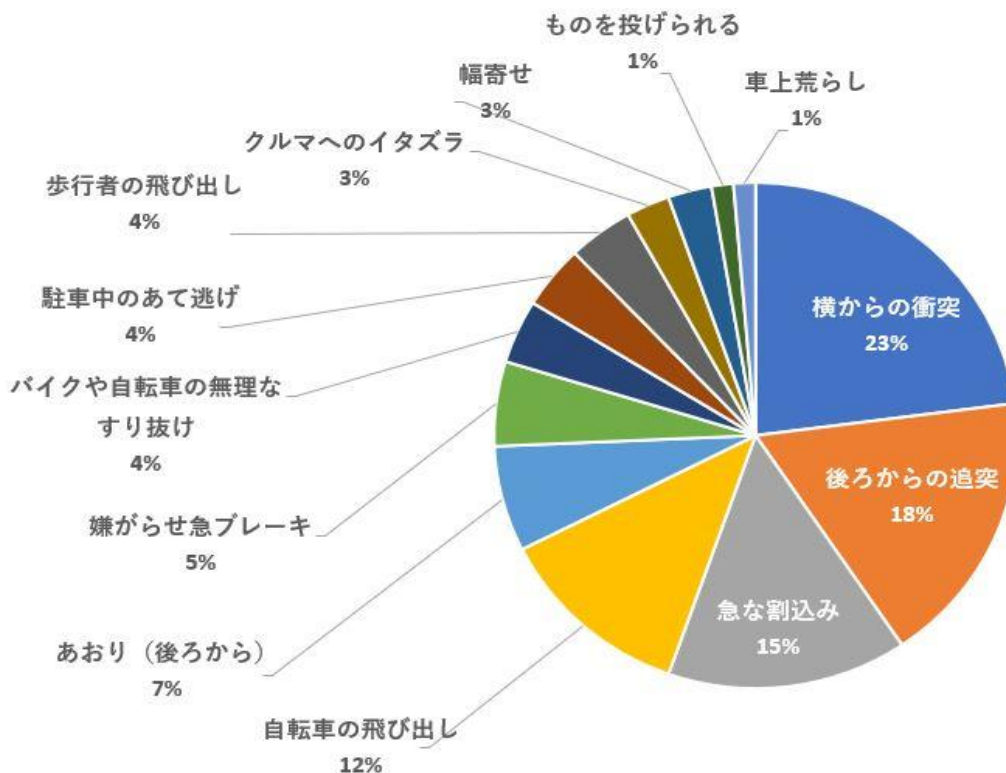
事故率をしてみると、1位『後ろからの追突（36%）』2位『横からの衝突（23%）』と、不意に起きる『衝突事故』が全体の約6割に。衝突ほどではないが、『自転車の飛び出し』や駐車中のトラブルも1割近くあり頻度の高さがうかがえた。



警察への通報、続いて保険会社への連絡

事故や事件に至った際、もっとも効果的だった対応は1位『警察への通報』2位『保険会社に連絡』だった。続いて『ドライブレコーダーでの映像確認』『ナンバーを控える』など説明材料となるもの。『その他』に含まれる内容は、車の盗難や車上荒らし等、駐車中のトラブルに関するものだった。

「ドライブレコーダー」が活用された事故・事件



映像確認が最も役立ったのは『横からの衝突』

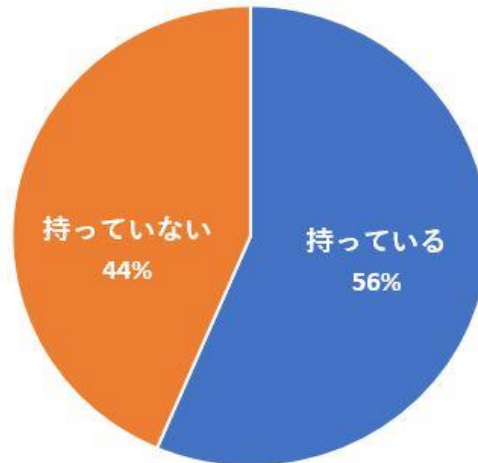
ドライブレコーダーが役立ったのは、1位『横からの衝突（23%）』2位『後ろからの追突（18%）』3位『急な割り込み（15%）』であった。警察や保険会社への状況説明に使用し、もめた際の事故処置時間の短縮や過失割合の交渉に役立っていた。衝突後逃げられた際や、駐車中のトラブル等にも活用されていた。

「交通トラブル」エピソード

- ・ 信号待ちで止まったら後ろから衝突、勢いで前の車に衝突
- ・ 右折矢印で右折時に直進車が信号無視で衝突事故に
- ・ 信号のない交差点で優先直線を走っていたら、左から酒気帯び運転車が突っ込んできた。
- ・ 自転車側には止まれの標識及び標示がありましたが自転車が止まらず進入してきたため避けきれずぶつかった。
- ・ 信号待ちの際、原付バイクが隣をすり抜けて行き、サイドミラーにぶつかり壊れたがそのまま行かれてしまった。
- ・ あおり運転の後、追い抜かれて前で割り込みの急ブレーキをかけられた

ドライブレコーダーについて

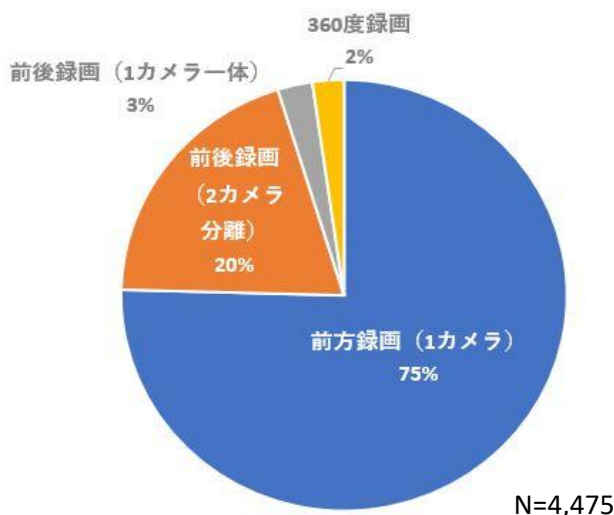
回答者 (7,932名) ドライブレコーダー所有率



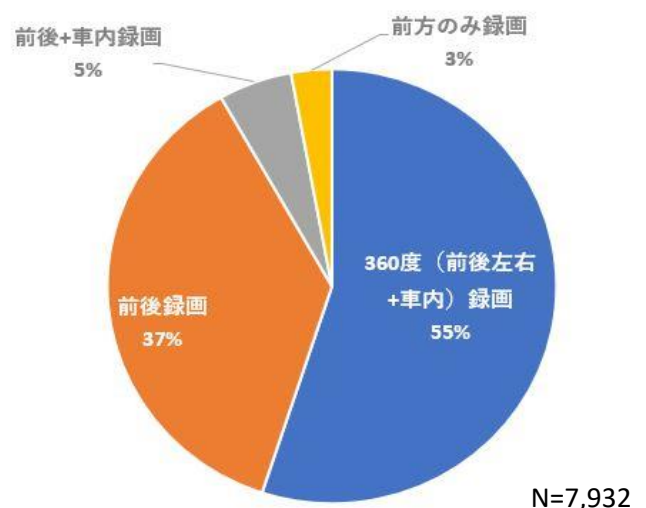
ドライブレコーダー所有率56%

一般的にはドライブレコーダーの所有率は1割程度とされていたが、2017年の「あおり運転」による事故報道以降所有率は増加している。しかし、当社『ご愛用者登録者』のドライブレコーダー所有率は5割以上と多かった。

現在使用のドライブレコーダーは？



今後ほしいドライブレコーダータイプ



万が一に備え、広い画角のものが望まれている

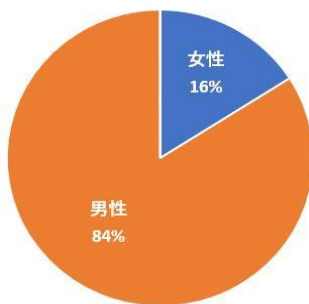
現在使っているものは前方録画が75%だった。今後ほしいドライブレコーダーを聞いたところ『360度録画』が55% 『前後録画』が37% 『前方録画』は3%だった。本アンケートにより、経験したトラブルを質問した後の回答ということで影響を受けている可能性もあるが広画角録画のニーズは高い。『360度録画』を選んだ人の多くは「横からの衝突」「全方位撮れる」等の安心感を理由として上げていた。『前後録画』を選んだ人は「前だけでは怖い」「あおりや追突対策」が多かった。

ドライバー8,000人に聞いた『交通トラブル』実態調査

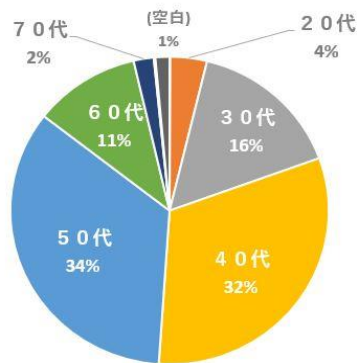
株式会社カーメイト調査

回答者属性 (N=7,932)

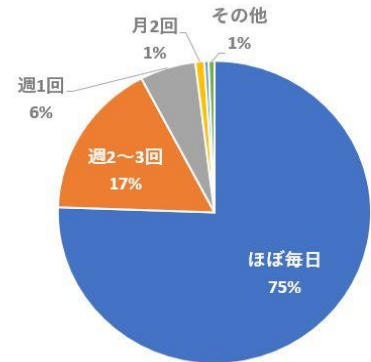
回答者属性：性別



回答者属性：年代



回答者属性：乗車頻度



回答者属性：クルマ用途 (複数回答)

